

献 辞

徳賀芳弘教授は、令和2年12月に65歳の誕生日を迎えられ、令和3年3月31日をもって、本学を退職されることになりました。

昭和53年3月九州大学経済学部経営学科卒業、昭和55年3月九州大学大学院経済学研究科修士課程修了、昭和58年3月九州大学大学院経済学研究科博士後期課程を単位取得後、平成11年9月に京都大学博士（経済学）を取得。その間、平成2年より2年間、米国ワシントン大学・経営大学院の客員研究員として研究に従事されています。昭和58年4月九州大学経済学部助手、昭和58年5月熊本商科大学商学部講師、昭和62年4月九州大学経済学部助教授、平成12年4月九州大学大学院経済学研究院教授、平成14年10月京都大学大学院経済学研究科教授を経て、平成18年4月同大学大学院経営管理研究部教授に就任されました。

京都大学では、経営管理講座を担当し、学生指導に力を入れてこられました。15年にわたって国立台湾大学との国際ワークショップを主催し、学生の国際デビューを後押しされています。また、公認会計士試験において、演習で指導された学生・大学院生の中から50人以上の合格者を輩出し、そのなかには全国で1位や4位の優秀な成績で合格した学生も含まれています。さらに京都大学在籍17年で指導された院生のうち、7人が主要大学の教員として活躍しています。

研究においては、財務会計、国際会計等の分野における理論的・実証的研究に傾注し、日本会計研究学会の学会賞や太田・黒澤賞の受賞などに見られるように、多大な業績を残されています。徳賀教授が30冊以上の学術書の書評を依頼され執筆しているのは、教授の見識の確かさと論評の公平さが評価されている証です。徳賀教授は、特に、会計制度・会計基準に関する研究で先駆的・指導的な立場で活躍されてこられました。また、平成22年より2年間、日本銀行金融研究所の客員研究員も務められています。金融庁・企業会計審議会会長、企業会計基準委員会委員、金融庁・公認会計士監査審査会委員などの要職を歴任されていることに見られるように、狭義の学術面にとどまることなく日本の会計基準設定に大きな貢献を果たされています。

学会活動においても、日本会計研究学会会長、国際公会計学会会長、Asian Academic Accounting AssociationのPresident、International Association of Accounting Education and ResearchのVice President（2回）をはじめとして、国内外の多数の学会の理事を務めたほか、日経・経済図書文化賞や他の多数の学術賞の審査委員も務めてこられています。日本学術会議会員では経営学委員会・委員長として活躍されました。

また徳賀教授は、平成21～24年、および平成26～27年に京都大学理事補、平成24年4月から平成26年3月まで京都大学経営管理研究部長および教育部長、平成26～27年まで京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター長を務められました。さらに平成27年10月～令和2年9月まで基金・同窓会担当の京都大学副学長を務められ、就任当時、国立7大学で最下位だった大学基金をわずか5年で、国立大学で2番目の規模にまで拡大されるなど、大学運営においても大きな貢献をされておられます。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功績への敬意と学恩に対する感謝の気持ちを込め

て、本記念号を編集いたしました。先生のご指導を受けた方々から寄せられた論文を編んで、本号を教授に捧げることができますことは、私どものこの上ない喜びであります。

徳賀先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のためにご活躍なされますことを心からお祈りいたします。

2021年3月1日

京都大学大学院経済学研究科長

江上 雅彦